

創業125年、わたしたちが
これからも
変えないこと。

創業明治24年、エネルギーとともに。
鈴木産業の歴史、現在、
そしてこれから。

社是
至誠一貫

ミッション
エネルギーの供給を通じて
豊かな生活をお届けする

経営理念

1. 現状に満足しない
2. 働くことに打ち込む
3. 質素を旨とし、一滴一片の資材も粗末にしない
4. 和の精神を尊び、自らの生活向上を図る
5. 地域に愛される存在になる

これからの エネルギーの話。

株式会社鈴木産業

戦前

明治24年、稲刈一色に創業した鈴木炭商店の出発点は、吉良に広がる製塩業にあった。塩田で採取した鹹水を平釜に入れ煎熟する際の燃料に石炭を使用したという。勢いを得た初代鈴木炭次郎は渡邊安太郎とともに名古屋へ進出、明治40年にはコークスの製造販売を開始した。

大正7年には鈴木式コークス窯炉を発明し、実用新案登録を得て好評を博す(第36661号・第39138号)、大正9年10月26日に会社組織として合名会社鈴木炭商店が成立した。

大正13年、三菱商事・三菱鉱業の特約店となると、北朝鮮の保山、鎮南浦の港から運んでくる平壤無煙炭(練炭の原料)の販売権を一手に引き受けて拡大。昭和2年には東京出張所を設け、内航船も複数保有した。また、昭和7年にはピッチ練炭の製造に着手し、鉄道省へ納入を開始すると昭和8年に合資会社鈴木炭商店に改組した。最盛期を迎えた昭和14年3月20日、鈴木炭号が愛知県上空に飛んだ。愛知県下では献納機第一号である。

しかし、このあと太平洋戦争に突入すると石炭も配給制となり、昭和17年に企業整備命令が出ると休業に追い込まれた。二代目鈴木炭次郎とともに代表社員を務めた渡邊耕二は愛知県石炭株式会社取締役社長に任命され、その後も配給会社の要職を務めた。この戦争により工場は焼失、敷地の多くも市に接収された。

戦後

昭和22年、鈴木良子氏が鈴木燃料工業(現ヤマサ総業株式会社)を立ち上げ、復興が始まる。一方、渡邊耕二は配炭公社設立により名古屋配炭局長を被命しており、鈴木炭商店が再開するのは昭和24年、石炭・コークスの統制が解除されてからだった。再興の足がかりとなったのが渡邊博之(前会長)の「着火練炭」(特許第21933号「着火炭の製造方法」)の発明であり、昭和30年の池内町給油所の開所であった。また、昭和41年に開所した池内町オートガスタンク(主にタクシー向け燃料)との両輪で再び大きな成長を描く。自動車社会の到来とともにガソリンスタンド事業は拡大し、三菱石油の協力のもと松ヶ枝町・赤荻町・鳴海・岡崎城北など最大6カ所を運営した。

しかし、1995年に規制緩和されると異業種参入やセルフスタンドの開所が相次ぎ、苦戦を強いられる。次第に閉鎖を余儀なくされた。

現在

元来にあっても三菱石油は日本石油と合併した後、日石三菱、新日本石油、JX日鉱日石エネルギー、JXエネルギーと変遷した。2017年には東燃ゼネラルグループと統合する。エネルギーの有り様もまた大きな変革期を迎えている。自動車燃料はガソリン・LPG・CNG・電気・水素に広がり、家庭用エネルギーも電力自由化、ガスの自由化が現実となった。当社はこうした変化に対応するため、各種石油製品やLPガスの販売とともに生活分野に事業分野を広げ、エネルギーの供給を通じた生活の向上を使命としてお客様のニーズに応じていく。

今、モノにあふれ、情報が飛び交い、いろいろな繋がりをもてるようになりました。

一方で、地域の中での人と人のつながりも大きく様変わりしました。

核家族化が進み、「無縁社会」といわれるように孤独死や餓死といった問題も起きています。

世代が変わり、昔頼っていたお店も今はないかもしれません。

情報はあっても、なかなか連絡するところまではいかないかもしれません。

そんなとき、ひと声かければ、その要望を形にしてくれる……。

何も目新しいことではありません。

それでも私たちはそのコーディネーターとして力になりたいと思います。